

ふれあいと語らいの同窓会



東実同窓会報 No. 23

発行 〒144-0051 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL 03-3732-4481

東京実業高校同窓会会報部
<http://www.tojitsu-dosokai.com>

絆

母校、陸上競技部駅伝チームが、昨年に続き 2 年連続の高校駅伝全国大会出場という快挙を成し遂げられ、おめでとうございます。また、マーチングバンド部におかれましても全国大会小編成の部で金賞を受賞されるなど、嬉しいニュースが入り喜んでおります。

2011 年の一文字漢字では「絆」があげられました。3・11 の東日本大地震大津波の惨状の報道を見るにつけ、啞然とするばかりでした。未曾有の大きな被害に遭われた方々には、謹んでお見舞い申し上げます。

日本には昔から、事新たに、「絆」、「絆」と言わなくても、さまざまな場面で「絆」があったように思いますが、特に今年は被災後自然とこの「絆」が人の心を大きく動かし、人から人へと、これ程この言葉が飛び交った年はなかったと痛感させられました。いずれにしても元気づけられた「絆」という言葉を、これからもずっと大切にしていきたいと思えます。

最後になりましたが、母校の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。佳き年をお迎え下さい。(2011 年 12 月 31 日記)



会長 本田 位公子(第 34 期)



平成 23 年 同窓会定期総会
(2011.6.4 プラザ・アペア)



東日本大震災の年に



この原稿を書いておりますのが2011年11月ですが、会報に載りますのが来春ですので、あの未曾有の大津波が東北地方を襲ってから、1年が過ぎていることとなります。

あの日、横浜の我が家でも相当な揺れを感じ、恐ろしい思いをしましたが、その後テレビ画面に映し出された光景は一生忘れることの出来ない自然の猛威でした。当時は大津波の映像が絶え間なく流され、被害の無かった地域の人達の気力をも失わされる程、日本中が意気消沈したように思います。ましてや被害に遭われた方々の気持ちを考えますと、どんな言葉で慰めても虚しい口先だけの様な気がして、心が落ち込んでいくようでした。

その後、何ヶ月経っても一向に進まない支援、政府の煮えきらない混迷ぶりなど、私達の気持ちを逆撫でするようなことばかりで、本当にこの国はどうなっているのだろうと、怒りを乗り越えて虚しさだけが心に残りました。東京実業高校では長年の懸案だった体育館の建て替えが数年前より計画中で、まさに請負会社も決まり、日程表も出来上がった矢先の震災でしたので、果たして資材や工事人等の手配が出来るのだろうかと危ぶまれました。しかし、幸いに新学期が始まり行程通りに解体工事も無事終わり、11月4日には安全祈願祭を蒲田の八幡神社で執り行いました。

2012年10月には新しい体育館が完成し、新生東実の出発となります。思えば旧体育館は私が大学生の時に建てられたものでしたから、そろそろ半世紀が経っていたわけで、多くの思い出を残してくれた建築物でもありました。歴史と共に壊れてゆくもの、そして、未来へ向けて生まれ出るもの、その繰り返して歴史は作られていくことを否応無く実感しております。

体育館完成後には二期工事として、二号館・四号館・五号館の建て替えが始まりますので、まだ暫く落ち着かない日々が続きますが、2014年全てが終了した暁には21



理事長 上野 雅子

世紀を生き抜いてゆく東実が誕生することでしょう。その時をどうぞ楽しみに待っていて下さい。

そして、もう一つ嬉しい出来事がありました。陸上競技部が2年連続で東京都代表となり、12月25日に都大路を走る駅伝の快挙です。前回は不本意な順位でしたので、今回はもっと上位を目指そうと意気込んでいます。この原稿が皆様の目に触れる時には順位は分かっておりますが、応援に来て下さる方、乞うご期待です。

2012年は何事も無く平穏な年でありますよう祈るばかりです。

(本原稿は、2011年11月下旬に執筆して頂きました)



平成 24 年度新年会(2012.1.28 プラザ・アペア)

… ゆったり …

都南ユウキ

パーキング

〒144-0044
東京都大田区本羽田3-23-46
TEL・FAX 03 (3745) 0891

第32期 石井 澄枝

「2011年」



学校長 上野 毅

3・11 東日本大震災発生、2011 年は日本全体から見て、また、世界的に見ても異常な年であったと言わざるを得ません。

大旱魃、大洪水、山火事...と大災害の連続です。平均気温が 1 以上、上がっているような感じです。氷河が溶けています。海水面が上がリ、これではいずれ世界中が水浸しになることでしょう。

震災の大津波によって原発事故が起こり、その結果放射能が拡散され、東日本はその対策に大わらわです。今さら言ってもしかたがないのですが、人間が持っている自然に対する傲慢さが咎められているのではないかと思います。“咎め元年。”と名づけられても良いと思います。今から出来ることは何なのか?...と考えると、まず、地震国日本で原発が設置されている立地を考え直し、将来原発を使用するならば、危険な立地にある原発に優先順位を付けて他に移すことです。今、活断層の上に建っている原発、津波により被害が起きる可能性のある原発は時間をかけて移動させるべきです。原発と共に生きるならば、冷却水のシステムが壊れないようにすれば使用出来るのですから、再稼働を「する」、「しない」の議論より、順番に移動させるタイムスケジュールを決めて実行に移した方が良いと思います。私と同じ意見を持っている人は、残念ながらマスコミには皆無です。

さて、3・11 の大震災の起こる前日に東実体育館の建築会社を選ぶ入札が行われました。2 年前から設計に取りかかっていたので、震災の影響で資材や工事人の手配などが出来るのか危ぶまれました。しかし、2 学期になって解体工事も無事に終了し、この原稿書いている 11 月には基礎杭を掘っている段階です。取り壊しに 6 ヶ月かかりました。何ごととも時間がかかります。しかし、建ち始めたら早いもので 24 年 10 月には体育館が完成する予定です。

2011 年は東実にとって、すばらしい年でありました。本号の掲載記事に他の多くの方々がかかれていますが、全国高校駅伝の東京都大会で、2 年連続優勝することが出来ました。すばらしい選手達の日々の努力は勿論のこと、指導者は震災の影響で練習も例年と違った要素もあり、やりにくかった面もあったはずですが。それにもめげず、「不撓不屈」の精神で勝ちとった全国大会出場。しかし、選手達は去年の全国大会の雪辱に燃えています。また、他の運動部も負けじと頑張っています。

結果はまだ出ていませんが、目標に向かって努力する過程が大事だと思っています。将来この努力が人生の成果として表れるのです。全ての生徒達の前途に祝福あれ！

(本原稿は、2011 年 11 月下旬に執筆して頂きました)

全国高校駅伝の結果

(毎日新聞 12/26 日配信記事抜粋)

男子第 62 回、女子第 23 回全国高校駅伝競走大会(毎日新聞社、日本陸連、全国高体連など主催)が 25 日、京都市の西京極陸上競技場を発着点に行われた。ともに 2 年連続出場となった都代表の 2 校もたすきに思いを込め、寒さの厳しい都大路を力走。男子・東京実業(3 回目)は 2 時間 10 分 10 秒で 30 位となり、昨年の 45 位から大きく躍進した。

東京実業は都大会に欠場した複数の主力選手が故障などから復帰し、大きな飛躍を遂げた。各校のエースが集まる「花の 1 区」では我那覇和真選手(3 年)がスタート直後、集団にもまれて転倒するアクシデントに見舞われるも「自分の走りで後が決まる」と奮起。32 位でたすきをつなぎ、流れを作った。

初めての都大路で「手が震えた」という 2 区の中山将選手(1 年)は順位を落とし 35 位で中継点へ。3 区の榎山健選手(3 年)が「ここで追い上げるしかない」と前半からハイペースで 4 人を抜き取り、取り返した。

4~6 区は 32 位を堅守。4 区の稲毛悠太選手(2 年)は「前の選手に付いて行くのに必死で後半スタミナ切れした」と悔やしさも残した。5 区の徳田亮太選手(1 年)と 6 区の萩原祐樹選手(2 年)は「抜かれてはいけぬ」と踏ん張った。

7 区の千田航世選手(3 年)は序盤と終盤に 2 人追い抜く区間 18 位の走りで、意地を見せた。ただ、チーム目標の「20 位以内、2 時間 8 分 30 秒」には及ばなかった。千田選手は「この 1 年でチームがやってきたことの結果」と冷静に受け止め、更なる飛躍を後輩に託した。

●お菓子のご用命はアルベリに●

和洋菓子、クッキー、焼菓子、ギフト etc
まごころこめてお届けします。

株式会社 **アルベリ**

〒222-0002 横浜市港北区師岡町 821-7
TEL : 045-543-5211
FAX : 045-542-4387

<http://www.alberi.co.jp>

代表取締役社長 仲川 忠邦

学校の近況報告



副校長 知念 義裕

本校が、現在の大田区西蒲田 8 丁目に校舎を移転をしたのは 1936 年（昭和 11 年）ということですから、この地にかれこれ 75 年の歴史を刻んだこととなります。

「蒲西地区」地元の方はこの地の名称としてこう呼んでいます。西蒲田 8 丁目、新蒲田 1~3 丁目、東矢口 1~3 丁目、多摩川 1~2 丁目を含むこの「かまにし」地区。北は呑川を境として南は蒲田操車場までの範囲に約 6 万人が暮らしているそうです。

現在建設中の新体育館と平成 26 年秋に完成予定の新校舎も生徒の安全、学習環境への配慮は言うまでもなく地域に最大限の心配りのもと、工事を進めています。

さて、地域共生を教育目標の一つにおく本校は、お隣の大田区立御園中学校、そして区立の相生小学校、道塚小学校と共に、こどもの光発見活動をテーマに「あじさい校区」の一角を担っております。小・中・高、公・私立の連携は全国でも珍しいのでないかと思えます。毎年 3 月に各校の活動・取組みを展示しているのですが、2011 年は大田区役所内に展示物を掲示した直後に東日本大震災に見舞われました。

翌 3 月 12 日は 2 年生の屋久島への修学旅行の 1 班の出発日。13 日が 2 班、14 日が 3 班の出発予定日。大混乱の中、結果的に、一旦、屋久島への修学旅行はキャンセルという学校の判断。在校生 1146 名は負傷者もなく、全員無事でした。

4 月の入学式以降、学校生活の混乱はありませんでした。被災された方々を偲びつつ、改めて 6 月に鹿児島、知覧への修学旅行を実施しました。また、国家試験である第二種電気工事士一次試験（筆記）に合格した 22 名が、放課後や夏休み中の集中講習会の甲斐があり、全員、実技試験にも合格するという嬉しい結果も出ました。

部活動での活躍の様子を報告いたします。

野球部：第 93 回全国高等学校野球選手権大会東東京大会においてベスト 32（昨年はベスト 16）。

サッカー部：第 90 回全国高校サッカー選手権大会都予選（A ブロック）においてベスト 8（昨年はベスト 4）。

レスリング部：全国グレコローマン選手権に 66 キロ級、74 キロ級の 2 階級に出場を果たしました。

陸上競技部：10 月の山口国体で、5000m 競歩において堂々の第 3 位入賞。2010 年に 7 年振りに東京都代表として京都の都大路を駆け抜けた駅伝チームは 2011 年も都大会を連覇。第 62 回全国高等学校駅伝競走大会に出場し、30 位（昨年は 45 位）。レース開始直後のアクシデントはあったものの、校訓である「不撓不屈」通りの気持ちの強さを発揮し、今後の更なる躍進を予感さ

せました。

マーチングバンド部：2010 年は 13 年ぶりに全国大会出場を逃しましたが、2011 年には関東大会第 1 位で全国大会に復帰。マーチングバンドバントワーリング全国大会では強豪校がひしめく中で、見事、小編成の部で金賞を受賞。さすが東実の「華」であり「顔」と言われる活躍でした。

卓球部：2012 年 3 月 14 日~18 日、東京体育館において行われる全国大会個人の部に出場が決定。2011 年も本校生が都代表を勝ち取りましたが、震災の影響により大会が中止。体調管理に気をつけ万全の状態を臨んで欲しいと思います。

学校行事について報告いたします。

体育祭：大井陸上競技場にて 9 月 30 日（金）に実施。保護者の入場者数 277 名。生徒会種目と体育科種目で大いに盛り上がりました。近年この時期は残暑が厳しいため、2012 年からは 10 月の開催となります。

東実祭：2011 年はオープンハイスクールと称し、11 月 12 日（土）、1 日のみの実施。中学生とその保護者を対象とした学校説明会も実施した関係で、1323 名の来場者がありました。

教職員の永年勤続表彰及び異動は次の通りです。

（永年勤続表層）

勤続 40 年：金子 健一（機械科）、小椋 幸江（電気科）
飯塚 方子（事務）

勤続 20 年：高橋 修（社会科）、藤田 稔（機械科）
村山 隆（機械科）

勤続 10 年：寺岡 しのぶ（英語科）、宮地 裕（国語科）
（異動）

退職教職員：三山 弘（理科）、金子 健一（機械科）
金子 知美（数学科）

uno CO.LTD.

ビジュアルプランニングのパートナー
写真の撮影・編集・印刷・製本まで

有限会社 ウーノ 03-3871-3448

〒116-0002 東京都荒川区荒川3-6-4
KATO P.P 2F

機械科の近況報告



機械科科長 佐藤 卓司

平成 23 年度、機械科は新入生 102 名を迎えました。残念ながら女子の入学者はありませんでした。したがって、今年度の機械科の在籍数は、平成 23 年 4 月 1 日現在 326 名で内訳は 1 学年 102 名（3 クラス）、2 学年 118 名（内、女子 1 名・3 クラス）、3 学年 106 名（内、女子 1 名・3 クラス）となります。学年・クラス担任は 1 学年 A 組：村山隆（機械）、B 組：関根勝（数学）、C 組：山下秀徳（体育）、2 学年 A 組：増田修一（機械）、B 組：松田稔（体育）、C 組：岩田孝文（体育）、3 学年 A 組：河野年光（機械）、B 組：片山智裕（社会）、C 組：小川欽也（体育）の各先生方です。

現在の実習内容は 1 年生で機械（旋盤）溶接、電子工作、2 年生で機械（旋盤）材料試験、デジタルデザイン（レーザー加工・3 次元 CAD）、3 年生で機械（旋盤）材料試験、CAD を行っております。特に、基本切削を学んだ旋盤を使いダンベルやコマを製作しています。課題研究においては、ロボット制御、マシニングセンタ（数値制御工作機械）情報演習を行っております。

将来の進路設計に向けての資格取得にも従来通り力を入れており、ガス溶接、アーク溶接、有機溶剤作業主任者、クレーン・玉掛け、フォークリフト運転等の技能講習会を実施し、多くの生徒が挑戦し取得しております。

通常では電気科の生徒が受験する国家試験「第二種電気工事士」に今回、機械科 2 年の生徒が 2 名挑戦し、本年 1 月から始まった放課後の講習会（学科・実技）等で地道な努力の積み重ねが功を奏し、見事合格したことは特筆すべきところであります。

同窓生皆さまの益々のご活躍をお祈りし、機械科の近況報告とさせていただきます。

電気科の近況報告



電気科科長 長谷川 浩

昨年度からスタートしたゲーム IT コースは、今年度 2 年目の入学を迎えました。入学した人数は 18 名（内、女子 1 名）と少し寂しいですが、その分電気コースの生徒が定員を超える 71 名（内、女子 1 名）入学しました。

現在、電気科は 1 年生が 3 クラス、2 年生も 3 クラス、3 年生（電気コースのみ）が 1 クラスの合計 7 クラスに膨らんでいます。

また、今年度も広報活動の一環として、「東京ゲームショウ 2011」（9 月・幕張メッセ）に出展をしました。まだ、完成したオリジナルゲームを披露することは出来ませんでしたが、本校ブースにも沢山の皆さんが興味を持って見に来てくれました。中には出展していることを知らない同窓生の皆さんが本校のブースに気づき、「東京実業」の学校名を見て、とても驚いた様子でした。

ここで、平成 23 年度の「第二種電気工事士」（国家試験）の合格状況を報告致します。7 月下旬の技能試験に 22 名がチャレンジし、22 名全員が見事合格。免状を手にすることが出来ました。技能合格率 100% は昨年に続いて 2 度目ですが、4 年ぶりに機械科の生徒（受けたのも 4 年ぶりですが）も合格しました。おめでとうございます。

最後に昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、大きな被害が発生し、沢山の犠牲者が出てしまいました。1 年たった今でも、福島第一原子力発電所では大きな問題を抱えて、地元の方々に大変な思いをさせています。電気科としては、生徒達に発電方式の新たな課題について、しっかりと学ばせたいと考えております。被災された方々に、この場をお借りしまして、お見舞い申し上げます。

●● 楽しい室内空間作りのお手伝い ●●

インテリア 遠藤商店

〒146-0085
東京都大田区久が原3-34-12
TEL(03)3752-3027 FAX(03)3752-3359

第22期 遠藤 孝一



平成 23 年度 第二種電気工事士合格者

普通科の近況報告

「ビジネスコース」



ビジネスコース科長
小島 茂



第1回東実ビジネスフェスタ

現在、普通科ビジネスコースには 398 人の生徒が在籍して、毎日の授業や検定試験（簿記・情報処理・ワープロ・社会常識能力・ビジネス能力・MOS）に向けて勉強に励んでいます。キャリア教育も行い職業的自立も目指しています。

11月のオープンハイスクールの珠算大会では、1年・瀬貫優、2年・藤井真実、3年・岡田大樹が、簿記大会は1年・佐藤太造、2年・中村凌太、3年・下土居明孝が優勝しました。

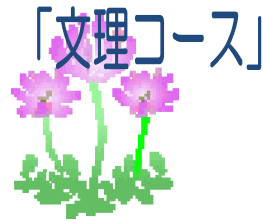
今年度から『第1回東実ビジネスフェスタ』を開催し、ビジネスの場面を想定して学習した知識と技術を生徒が実践出来る場として3学年の代表が、仕入れ、装飾、販売に分かれ、東日本大震災で被害のあった岩手県、宮城県、福島県の物産をアンテナショップで仕入れ販売しました。1年生はパソコンでポスターを作成し、2・3年生はマーケティングリサーチをしました。

今後もビジネスコースの生徒指導に全教員が全力で取り組んでいきたいと思ひます。販売実習で運営にあたった岩手県4名（宮崎安二・竹尾沙里・多羅尾光宣・前里真輝）宮城県6名（高久美洋・伊原有里亜・加藤優志・島田拓樹・田中亮平・宮城島宏枝）福島県5名（幸田拓也・安斎美紗・垣野早紀・小林智也・吉田賢汰）は全員3年生メンバーです。



東実ビジネスフェスタ(物産販売)

東京実業高校の最新情報は、ホームページを随時更新し、紹介しておりますのでご覧下さい。
<http://www.tojitsu.ed.jp/>



「文理コース」

文理コース科長
高橋 修



普通科文理コースでは、11月1日現在で1学年67名、2学年59名、3学年78名の生徒が在籍しています。昨年卒業した生徒の進路先は、一般入試で駒沢大学、関東学院大学、明海大学、横浜商科大学等に合格し、また、神奈川大学、東京都市大学、国士舘大学、帝京大学、立正大学、共立女子大学等に進学しています。短大・専門学校進学その他に4名が就職しました。文理コースでは、次の三点を指導の重点としています。

- (1) 基礎学力の定着
- (2) 生徒たちのレベルに合った学習の展開
- (3) 大学進学に向けた実力アップ

(1)については、最近報道されているように高校生の学力低下が全国的な問題になっています。この問題に対し、1年生を対象に、「到達確認テスト」を実施しています。

国語・数学・英語の一週間分の授業の定着度を確認し、合格点に達していない場合は放課後の補習で、さらに定着を図っています。これも7年目を迎えて、土日に復習をする生徒も増えています。

(2)については、2年次(英・国・数)、3年次(国・英)に習熟度別授業を展開し、生徒のレベルにあった授業を行い、理解度を高めるようにしています。

(3)では、城南予備校から講師を派遣してもらい、年間17回の土曜講座を実施しています。今年からは1学期からスタートし、早い段階から大学受験体制の構築を始められるようにしました。1・2年生約50人が参加し、実力アップを目指して頑張っています。

大学全入時代と言われている今だからこそ、自分が希望する大学への進学を確実なものにするためにも、ポップ・ステップ・ジャンプの指導体制と、以前実施していた学習合宿の再開を検討し、各講習会の充実、早期の進学意識付けなどを行いたいと思ひます。そして、一人でも多くの現役合格を目指し、難関校への合格が出来るように、様々な取り組みを行っていきたく思ひます。

美しい日本語を大切に

株式会社 佐々木印刷所

☎146-0095

東京都大田区多摩川1丁目18番5号

TEL.03-3758-0710

FAX.03-3758-2821

第56期 佐々木 健

映画研究部



「スピンオフからオリジナルへ」

映画研究部顧問 小島 茂
(普通科ビジネスコース科長)

映画研究部では、商業科第2コンピュータ室のプロジェクターでの映画鑑賞と学校行事撮影、自主映画制作が主な活動になっています。1年生から3年生まで女子部員2人を含め、27人の部員が活動しています。

平成23年度は、学校行事の入学式、体育祭の撮影の他に、中学生対象の学校見学会に上映する運動部・クラブ紹介のビデオを制作しました。BGMや字幕、映像効果など何回も部員同士で試写会をして、より良い作品に出来上がり、運動部員の“はつらつ”とした表情が伝えられたことと思います。

オープンハイスクールでは、『東実版リアル鬼ごっこ』を発表しました。原作のリアル鬼ごっこにアレンジを加え、生徒が毎日脚本を練り直す作業を繰り返し、脚本、小道具、カメラ担当、演技指導責任者、演出、監督、編集の役割をこなしながら、全員が演技をしていました。

ひとつの作品を完成させるまでに部員同士が真剣に激論を交わし一生懸命演技をしていました。部員全員の気持ちがこもった思い出深いものとなりました。

映画鑑賞、ビデオ制作を通して高校生の一生涯懸命な気持ち育て、少しでも表現出来るよう今後も部員の可能性を伸ばしていきたいと思っています。



生徒会報告



生徒会長 塚田 健太



私たち生徒会執行部は1年生7名、2年生5名の計12名で活動しています、主な活動は新入生歓迎会の主催や生徒会誌「蒲公英」、「together」の発行等です。

今年度の最初の活動は4月に行われた「新入生歓迎会」です。この会の企画・運営は旧役員の3年生によるもので、新入生の皆さんを温かく歓迎することができました。

5月には旧役員最後の仕事である「生徒会役員選挙」が行われました。そして、選出された私たち新役員12名が活動していくことになりました。

私は前年度、「書記」という役職でしたが、今年度は「生徒会長」になり、より責任を感じて行動一つ一つにも慎重になり、「生徒会長」としての自信ができました。

6月には新役員の名前を覚える暇もなく「生徒総会」の企画・運営をしました。本総会では進行の段取りの点で上手くいかないこともありましたが、協力して進行し、無事に終了することができました。

毎年、7月には姉妹校の「東京高校生徒会」と「合同合宿」を行っており、今年も実施致しました。その一環として、今年度は「朝日新聞社」の見学を致しました。私たちはお互いの生徒会活動をより良いものにするため、合宿の他にも時々、会議を行ったりして意見を出し合っています。

2学期に入り、本校の行事には欠かせない「体育祭」、「オープンハイスクール」が行われ、進行の難しさを感じながら、皆さんの協力のもと、無事に終わることができました。特に、「オープンハイスクール」は1日ということもあり、来校者数を心配しましたが、来校者が1,300名を越え、盛況となり、安心しました。

また、11月に行われた「先生と生徒の懇談会」では代表の先生方と私たちが「生徒総会」で承認された要望案について話し合うことができ、今後の学校生活をより良くするため、来年度の課題が見つかった有意義な会になりました。

同窓生の皆さま、これからも生徒の一人一人が有意義な学校生活を送れるよう、執行部一同全力を尽くして活動していきたいと思っていますので、よろしく願い致します。

平成24年1月23日、毎日新聞社東京社会事業団の「毎日希望奨学金」に、東日本大震災で保護者をなくした震災遺児の奨学金として、定期総会開催時の募金及び東実祭の「どら焼き」販売の売上利益金計54,655円と予算会計から50,000円を支出し、金104,655円を寄付させて頂きました。(会長 本田位公子)

めっき材料総合商社

株式会社 三松

本社 東京都大田区西蒲田7-57-11
〒144-0051 TEL (03) 3733-7131 (代)
湘南営業所 藤沢市辻堂西海岸2-14-45
〒251-0047 TEL (0466) 34-1711 (代)
横浜営業所 横浜市神奈川区恵比寿町7-5
〒221-0024 TEL (045) 461-6088 (代)

第17期 村松 濱代

平成 23 年 定期総会 (収支決算報告・役員・事業計画)

【定期総会】

平成 23 年 6 月 4 日(土)午後 3 時から、「プラザ・アペア 羽衣の間」において平成 23 年(第 31 回)定期総会が開催されました。

本田位公子会長、上野毅名誉会長の挨拶の後、司会者から本田会長を議長に選出することについて諮ったところ、全員異議なく同氏が議長に選任されました。

議長は本総会の議事録署名人に加藤正明(37 期)、山田慎(75 期)両氏を選出したい旨を諮ったところ、全員異議なく承認され、議事に入りました。

議長の指名により、酒井利夫副会長から第 1 号議案の「平成 22 年度の事業報告」が詳細に報告され、次いで、会計の白銀正明副会長が第 2 号議案の「平成 22 年度収支決算報告(左表)」を行い、笠原忠男会計監査が監査報告をし、原案通り承認可決されました。次いで、第 3 号議案の「平成 23 年度事業計画(案)」並びに第 4 号議案の「平成 23 年度収支予算(案)」が一括審議され、満場の拍手で原案通り承認可決されました。

議事終了後、本会に出席の第 86 期(平成 23 年 3 月卒業)幹事の紹介がされ、閉会となりました。

【懇親会】

総会に引き続き、隣の「鳳凰の間」に移り、午後 4 時から懇親会が開催されました。

本田会長、上野雅子理事長、村松濱代顧問(第 2 代会長)の挨拶の後、ご来賓の東京高校同窓会矢沢秀一会長様よりご祝辞を頂き、同席された太田隆紹副会長、山本晴之介顧問、進藤健事務局の 3 氏のご紹介が行われました。次いで、井上昭校内幹事長から出席職員の紹介があり、上野毅名誉会長(学校長)より、東実の近況報告と併せて、乾杯の音頭をとって頂き宴に入りました。

出席者は総会のみ出席の方も含め、初めて 3 桁台となる 101 名(ご来賓・学校関係 16 名、会員 85 名)で、出席者の年齢は 88 歳(16 期 1 名)から 19 歳(昨年卒業の 86 期 16 名)、年齢差 69 歳という幅広い年齢層に亘る方々が出席下さいました。

半世紀以上の年齢差の O B ・ O G が交流する、という同窓会ならではの楽しい時間を過ごし、最後に全員で校歌斉唱し、関根秀夫常任幹事(28 期)の「フレ！フレ！・東実」のエールと拍手で散会となりました。

ご多忙中のところ、お集まり頂きました皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。(総務部)

平成 22 年度 収支決算報告書

自平成 22 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日

Table with 6 columns: 科目, 予算, 決算, 科目, 予算, 決算. Rows include 前年度繰越金(普通), 入会金, 寄付金, 広告費, 東実祭, 受取利息, 雑収入, 事務消耗品費, 通信連絡費, ホームページ管理者, 印刷費, 会議費, 総会助成費, 旅行助成費, 新卒会費助成費, 東実祭費, 会報発行費, 慶弔費, 卒業記念品費, 積立金, 交通費, 予備費, 次年度繰越金(普通), and 合計.

積立金等次年度繰越金内訳(別途会計)

Table with 6 columns: 金融機関名, 前年度残高, 増減, 利息, 本年度残高, 備考. Rows include 定期預金(みずほ), 定期預金(東京三菱 UFJ), 債券(MMF), and 合計.

平成 22 年度の収支報告書を監査致しました。その結果適正且つ妥当であることを認めます。平成 23 年 5 月 20 日

会計監査 笠原 忠男 同 小島 浩



平成23年度 同窓会組織図

名誉会長
上野 毅(学校長)

会長
34 本田 位公子

副会長
知念義裕(副校長)
39 戸田 三光
38 川邊 國造
37 白銀 正明
42 白田 佳彦
53 酒井 利夫

顧問
17 村松 濱代
27 渡邊 和彦
39 黒田 芳彦

相談役
16 小宮 龍雄
23 小島 浩
32 川名 重士
34 後藤 光明
34 浅賀 英雄
35 木村 恭久
36 天野 昇
37 米田 仁昌
38 田所 豊
41 滝口 房枝

会計監査
18 笠原 忠男
23 小島 浩

事務局
41 米倉 美鈴

常任幹事(部会)

事業部
(行事関連など)
53 酒井副会長
34 中山 勝博
35 河西 八重子
38 池上 長信
41 森田 洋司
41 竹見 佐智子
44 南 俊和
55 平野 清志
76 伊藤 英明
76 高山 峻一
77 山本 真史
78 西谷 靖朗

総務部
(総会関係など)
42 白田副会長
25 吉村 和重
28 関根 秀夫
29 箕輪 弘数
37 斎藤 君子
37 小泉 耕一郎
42 谷内 繁
42 瀬川 千尋

会計部
(会計管理など)
37 白銀副会長
30 渡邊 正信

企画部
(新規事業など)
39 戸田副会長
41 加藤 憲治
42 鈴木 和雄
42 瀬戸 盛義
79 鈴木 亮太

会報部
(会報出版など)
38 川邊副会長
22 遠藤 孝一
48 佐藤 まり子
56 佐々木 健
75 山田 慎

印は部会責任者です。

校内幹事

幹事長
42 井上 昭

副幹事長
46 原田 忠彦
46 飯塚 方子

幹事
42 荻野 知昭
43 千田 一雄
43 森 吉男
45 馬場 文男
54 村山 隆
62 中村 大
66 深川 剛
68 小島 健市

校内幹事は東京実業高校卒業の「現教職員」です。

氏名の前の数字は「卒業年度」です。
副会長・顧問は就任順、他の役員は卒業年度順です。

平成 23 年度 事業計画

◆総務部…定期総会及び庶務一般に関する事業

1. 定期総会

○平成 23 年定期総会の開催
日 時：平成 23 年 6 月 4 日(土)、15 時より
場 所：「プラザ・アペア」

2. 庶務一般

○同窓会員の名簿の更新及び卒業記念アルバム整理
○正副会長会及び常任幹事会の開催
○拡大幹事会の開催
○母校行事(教職員との新年互礼会・卒業式・入学式・体育祭・東実祭等)に参加
○本年度卒業の同窓会新幹事との懇談会開催

◆会報部…同窓会会報誌に関する事業

1. 同窓会会報誌

○第 23 号の発行(発効日：平成 24 年 3 月 1 日)
○広告掲載企業の募集

◆事業部…年間行事等に関する事業

1. 懇親旅行

○第 28 回懇親旅行の実施

2. 新年会

○平成 24 年度新年会の開催
日 時：平成 24 年 1 月 28 日(土)、17 時 30 分より
場 所：「プラザ・アペア」

◆企画部…新規事業の企画及びホームページに関する事業

1. ホームページ

○ホームページ運用管理並びに会員への情報提供

2. 新規事業の企画・立案

○企画案件を常任幹事会に提議

◆会計部…会計・予算の総括に関する事業

1. 会計

○各事業に係る会計報告並びに会計業務全般

2. 予算

○当年度の収支決算書の作成及び各部会の予算案の集計並びに新年度予算案の作成

主な行事報告(東実祭・懇親旅行・拡大幹事会・新年会)

東実祭

(2011年度はオープンハイスクールと名称を変更)

例年、2日間にわたって開催されていましたが、「東実祭」は、体育館の建て替え工事の都合により、昨年は11月12日(土)のみの開催となりました。

「同窓会の部屋」に会員が撮影した写真や自作品を展示。過去の卒業記念アルバムの展示と、CD化した画像アルバムをパソコンで検索してスクリーン映写で見てもらう等、来場者に楽しんで頂きました。

また、恒例となった「校章入りドラ焼き」を販売し、売り上げた利益を「毎日希望奨学金」に寄付し、東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の奨学金として、支援して頂くことにしました。



拡大幹事会

23年度の拡大幹事会は、昨年の11月25日(金)午後6時より、「プラザ・アペア」にて、学校関係者(校長・副校長・校内幹事教職員)及び同窓会役員26名の出席のもと開催されました。

各部会責任者より、事業活動の状況報告と、学校の近況や部活動の活躍状況などの報告があり、有意義な情報交換が出来ました。本会を通じて、より一層の協力関係を構築していきたいと思っております。



懇親旅行

第28回の懇親旅行は、昨年の10月15日(土)・16日(日)1泊2日で、富士裾野レジャーランド(静岡県)旅館「一の瀬」泊の旅程で実施されました。詳細内容につきましては、参加された石原孝氏(36期)の寄稿文を次頁に掲載しましたので、ご覧下さい。



新年会

平成24年1月28日(土)17時30分より、「プラザ・アペア」にて、ご来賓、先生方13名、86歳(17期)から19歳(86期)にわたる同窓会ならではの多彩な顔ぶれが一堂に集い、総勢71名のもと盛大に開催されました。

普段は、あまり話す機会がない大先輩の方々や卒業して間もない若い方々、そして先生方と話が盛り上がり、大変有意義な楽しい時間を過ごし、最後に全員で校歌を斉唱して閉会しました。



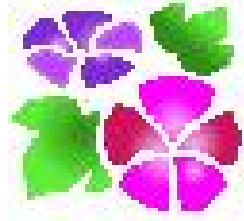
★各メーカー新車・中古車販売/★車検・板金・塗装
 ★あいあいニッセイ同和損害保険・生命保険代理店
 ★自動車・火災・損害・各種保険取扱

有限会社 モリタ自動車
 民間車検場(東京陸運局長指定第2-637号)

〒230-0023 横浜市鶴見区市場西中町4-17
 TEL045-521-4521(代) FAX045-504-5676
 E-mail: m-car@vf.netyou.jp

41期 森田 洋司

第28回懇親旅行に参加して



石原 孝 (第36期)

昨年の10月15日・16日(土・日)の1泊2日の懇親旅行に、初めて参加させて頂きました。

私は、1961年(昭和36年)3月、世の中が3年先となった「東京オリンピック64」に向かって秒読みならぬ、「あと日...!」とソワソワしている頃、「自分も頑張ろう!」と志を抱きながら卒業しました。

入学当時、レスリング部の先輩たちが、あまりにも大人に見えて恐ろしささえ覚えました。毎日のように蒲田駅から10分程かけてW君(他界)、A君、U君、T君の4人で通学し、試験が終わった時などは、商店街が賑やかで、帰り道立ち寄りもしていました。

2年生?の頃、環八のJR(当時は国鉄)陸橋が一夜にして繋がりと、これが日本の脈動の始まりでした。

九州への修学旅行は、夜行列車でしたので、車中はズボンの折り目が崩れないようにトレパンに履き替えたことなど懐かしく思われます。今思えば、見学した雲仙、阿蘇、三角、金刀比羅、血の池地獄、グラバー邸などの知識を「事前に勉強して行った方が良かったのでは?」などと思ったりして...、自身の生き方(人生)が変化していくのを、感じたのは私だけでしょうか。家内には、かなり迷惑かけたので出来ればもう一度、二人で修学旅行と同じコースを辿ってみたい気がします。

幸い技術系一色で一度転職したものの、設備機器製作の分野で40余年務めさせて貰い、いまだに現役で東奔西走しています。転勤族でしたので、長男など小学校を3回転校させ、気の毒な思いをさせたと思います。家のことは女房任せ、冷蔵庫に何があるのか判らない...。普段は作業衣ばかりなので良いのですが、どんな服を着て外出したら良いのか...、近所の付き合いは...、何年後には仕事人間で一生終わるのは...と、常に感じておりました。

そんな折(昨年1月)同じクラスだった某君が何かの情報で、私の居所を知って連絡があり、昨年の4月にM3Bクラスの8名でOB会を持つことが出来、その席で

今回の旅行を知り、参加が叶った訳です。

東実(当日)は、千葉県在住のためアクアラインを早朝に通過し、8時前には母校に着きました。集合時間まで時間があったので、車を駐車場に止めて、蒲田駅まで行き、通学路だった道を学生に戻り、附近を探索して大変懐かしく想いました。

参加者は25名で、車中は狭かったものの「縁は異なるものの不思議なもの...」まるで家族集団であり、寧ろ毎日顔を合わせている社内の慰安旅行以上の味わいがあり、アット云う間の2日間でした。

1日目は、富士の裾野の「ヤクルト富士裾野工場(敷地面積約62,000坪)」は素晴らしい環境で、安全安心をスローガンとし、使用済みパックからメジャー(記念品)や水質改造成(沈殿作用)活用など、リサイクルやエコに取り組み、また、停電時の電源確保のためにゼネレーターが設置してあり、万全の体制が伺えました。

宿泊先の旅館「一の瀬」のお風呂は、炭酸カルシューム温浴で、北海道から採取した歴史ある「湯の華石灰華」で、リュウマチ、肩こり、肌にもやさしく...であり、小生根っからの風呂好きで、家では毎朝晩、休みの日は昼も入ります。そんな訳で深夜、早朝(5時)にもコソソリ入りました。誰もいない専用風呂でした。

宴会は、参加者が29期から76期生に亘っており、50年近くもの年齢差があったので「どうなることやら!」と思っていましたが、先輩諸氏のチームワークと後輩達のパワーの相乗効果で、盛大且つ和やかに宴のひと時を過ごすことが出来ました。宴はまだ続き(カラオケ)、夜は更けていきました。やはり齢を重ねるとこのような同窓会旅行は大切で、健康で長生き(継続)に繋がるのかな...?と感じました。

2日目は、「キリンディスティラリー富士御殿場蒸留所」のウイスキーの工程を見学しました。あいにく休日のため操業している所は見学出来ませんでしたが、ビール(発泡)と中間で蒸留から熟成(3~30年)に分かれ、違うテイストに成るのが面白く、また、熟成させると目減りすることは知っていましたが、30年物は1800が450(25%)になることには驚嘆しました。試飲タイムで飲んだウイスキーは、家で飲んでいる物と同じでも、いつもと違う味に感じました。

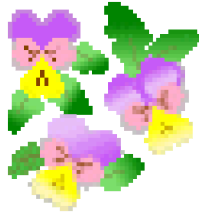
その後、「一の瀬」に戻り、昼食してから帰路に向かいました。幹事さん始め企画に携わった皆様(裏方さん)には、「ご苦労さん!」と云いたいと思います。

今回は、私が先兵(かなり7名を口説いたのですが...)として、参加させて頂きました。次回は前述の悪友と一緒に参加致したいと思います。



懇親旅行(2011.10.15 ヤクルト富士裾野工場)

東実時代の思い出



小俣 信夫 (蛍窓 20 回)

その存在を高く評価されていた我が東京実業学校夜間部について、予てから、忘れられない思い出などを書き留めて置きたいと思っていましたところ、このたび、幸いにも機会に恵まれましたので、その内容を取りまとめました。

小生は、昭和 20 年 1 月から昭和 22 年 3 月まで、東実夜間部で修学、卒業した「蛍窓 20 回生」です。83 歳を迎えた今日、机を並べた学友との交信は皆無の状態となり、何とも寂しい限りでしたが、ここ数年、初夏に開催される同窓会に出席して、多くの先輩、後輩と楽しい時を共有し、元気を頂いております。

なお、上述の昭和 20 年 1 月の入学は、第 2 学年の 3 学期からとなりますが、すでに、昭和 17 年 4 月から 19 年 3 月まで、東京府立第四中学校に在学し、第 2 学年を終了しており、提出した学成績証明書により、有資格者として、編入学が認められ、東実生となりました。

ところで、東実に通学していた頃は、戦時統制の厳しかった戦争末期の前半と、規制が撤廃され自由となった戦後の後半とに 2 分され、その時代の世相を反映した悲喜こもごもの出来事が記憶に残っています。

3 年前、自宅をリフォームした折に、納戸の奥から出てきた蜜柑箱の中から、東実の卒業証、卒業成績証明書等々に加え、卒業に際して、学校長から授与された表彰状(掲載表彰状の他、年間精勤の賞状・品行方正学術優秀の賞状)が見つかりました。これらの記録に目を通している間に、いつしか往時にタイムスリップしてゆきました。

中でも、昭和 20 年 4 月、京浜地区への空襲による校舎の焼失という悲劇に遭遇し、茫然自失の状態に陥ったあの時のことが、胸を突いて思い出されます。

学校当局は、直ちに、大田区鷓の木の新設校東京中学校の敷地内に仮設校舎を設け、授業継続の措置をとりました。このため、半死半生の我ら生徒一同、息を吹き返すことが出来ました。もし、学校当局の迅速適切な対応がなかったならば、小生らは霧散してしまい、恐らく、今日の姿を見ることは出来なかったと思います。その時は、無我夢中で将来のことなど思いも及びませんでした。この重大さに気がついたのは、かなり時間が経ってからのことでした。

その後、紆余曲折の時を経て、昭和 20 年 8 月 15 日、敗戦により太平洋戦争は、終結しました。

やがて、雨後の筍のように蒲田駅周辺の焼跡に出現した闇市と呼ばれた露店群の喧騒を極めた雑踏の中を、空腹で目が回りそうになりながら登下校したことは、誠に難儀なことでした。なけなしの小遣いを出し合って買い

求めた“焼き芋”を時には先生を交えて、口いっぱい頬張り、一時凌ぎをしたことも、懐かしい思い出です。

戦時下の幾多の規制から解放されたことにより、学窓生活にも緩みが生じ、出席に影響が出始めてきました。

夜間部は、志の高い苦学生の集団であり、多少のことは許されると勝手な仲間意識がありました。しかし、このような状態が続けば、これまでの苦労が水泡に帰し、やがては学窓の崩壊にもつながりかねないと危機感を募らせました。そこで、一刻も早く体制を立て直そうと心ある学友と鳩首協議を重ね、新しい自主的活動組織を樹立する案をまとめました。早速、学校当局の了解を得て、自治会を立ち上げ、全生徒を糾合一丸となって難しい局面の打開に立ち向かいました。

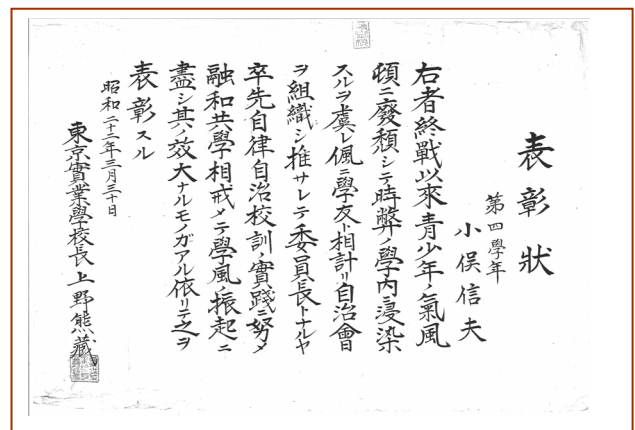
発足した生徒自治会は、校訓に掲げられている「親和誠実、不撓不屈」の精神を根幹において運営を図り、学校生活の規律は、生徒自身の自覚に俟つことにしました。

真先に取組んだのは、学年の上下を問わず、顔を合わせたら必ず声を出して挨拶を交わすことでした。一人の落ちこぼれも出さぬよう生徒間の紐帯の強化に努めました。「言うは易く、行うは難し」でありましたが、全生徒が心して励行したため、徐々に成果があがり、結束が高まると同時に、欠席者が次第に少なくなってきました。

昭和 22 年 3 月、自治会活動は後輩に委ね、私共は単立つことになりました。同期生全員が揃って、卒業証を受けた時のあの感激の情景は、今なお小生の心に鮮やかです。

卒業に際し、その自治会活動が学校当局に認められ、学校長から表彰を受けました。当時の活動内容が、いかなるものであったか、ご参考までに掲載させていただきます。

この表彰は、個人に対するものでなく、在校生全員が受けた栄誉であると認識しております。



あれから何年が過ぎ去ったでしょうか。東実夜間部は、昭和52年3月に到り、その使命を全うし、諸般の事情で、長い歴史の幕を下ろすことになりました。諸々の困難を乗り越えて生徒間に築かれた「不撓不屈」の精神は、今日の東実生に受け継がれていると確信しております。

振り返ってみれば、戦争末期から戦後の混乱した世の中であって、中断されることなく、勉学に勤しむことが出来たのは、夜間部に対する学校当局の暖かいご理解と揺るぎないご教導のお蔭であったことを、改めて、肝に銘じ、この機会に記録にとどめて、深甚の謝意を表したいと思ひます。

最後となりましたが、創立90周年の輝かしい歴史を誇る母校東京実業高等学校ならびに東実同窓会の益々のご発展を祈念致します。

青春と終戦時の回想



山本 進 (第18期)

私は大正14年5月12日、東京府荏原郡馬込村3448番地にて出生、現在は大田区南千束3丁目に居住。

小学校は大田区立赤松小学校で、東実へは池上線石川台駅から通学していました。

当時の電車は2ドアの車輛で、20分間隔位の運行だったと記憶しております。

平成21年3月1日発行の「東実同窓会報 No.20」に掲載の同期の松本勇氏が紹介された通り、私の組は1年が仁組、2年がC組でした。一番下の組だった故に、1年の担任だった国語の鷹野先生は、授業の折に「40点以上取らないと進学出来ない」と訓示されました。

制服は鶉の木駅近くの洋服屋に注文し、出来上がったのは5月頃でした。また、算盤は当時では最新の4つ玉の指定でした。

入学時は戦時中のため、月曜日から土曜日まで毎日軍事教練の時間がありました。3年生以上は38式小銃剣の教練と月に1~2回の10km・15km行進を多摩川土手等で行ない日々鍛えられました。

昭和19年5月に徴兵検査を受け、同年12月に入隊通知がありました。当時は軍需工場に徴用のため、猶予期間が6ヶ月間あり、昭和20年6月1日に我孫子の東部83部隊に入隊し、1ヶ月の再教育を受けて、7月10日に名古屋経由で中央本線の春日井にあった陸軍工廠に分遣されましたが、部所(署?)が決定せず訓練の日々を過ごしていたところ、8月15日終戦になりました。

中部方面連隊はすぐに復員が出来ず、9月15日に復員が決まり、9月16日の午前中に実家に到着した次第です。

※文中の松本勇氏の掲載記事抜粋

「(前略)~勉強のできる者A組、中ぐらいの者B組、分数や小数点になると良くわからない者がいるのがC組です。(中略)~でもC組にも画、体操、武道などには、優秀な者がいました。特に富士の裾野での軍事訓練や他校とのケンカとなれば、それこそC組の出番です。~(後略)」

叙勲について (報告)



小俣 信夫 (蛭窓20回)

平成10年秋の叙勲において、勲四等瑞宝章を受賞しました。

小生、東京実業学校卒業後、明治大学法学部を経て、国家公務員となりました。永年に亘る通商産業行政に携った業績が評価された受賞でしたが、顧みると、「不撓不屈」の精神を培って頂いた東実時代が、その源流となっています。

ここに、改めて母校に感謝し、益々のご発展を祈念致します。



スポーツのことなら!

しろかね

白銀スポーツ

ユニホーム・スポーツ用具
用品・施設・工事一般
カップ・賞品・トロフィー

〒143-0024 東京都大田区中央8-29-7
TEL(03)3754-8679 FAX(03)3754-4845

第37期 白銀 正明

土浦海軍航空隊の空襲 (その二・三)



顧問（第2代会長）
村松 濱代（第17期）

初めて見る霞ヶ浦の爆撃への光景を興味深く目を見張って見ていると、頭上で突然、シューという音がしたと同時に、ザーという空気を切り裂く鋭い音が身に迫りました。私は本能的にシマッタと思うと同時に、その場で耳と眼を両手で押さえ地面に身を伏せました。

その瞬間に真っ赤に燃えたぎっている炉の中に身体を投げ込まれ、熱と炎で全身が溶け、自分の肉体が何も残らずに灰になってゆくような物凄い暑さを感じました。また、瞬間的に航空隊に志願して、国のためにまだ何の役にも立っていないのに、このまま死ぬのは慙愧に耐えない。悔しい！熱い！自分の不注意でこんな所で犬死するのは残念だとの思いが脳の中を走りました。

それからどの位時間が経ったか分かりませんが、失った意識の中で、指先に何かを感じ、自分の意志ではなく、自然に手を握ったり開いたりしていたようで、アレ！手が動くと感じると同時に、意識が戻りました。

心の恐怖と動揺で辺りを見渡しますと、爆風による土埃と硝煙で周囲がよく見えませんでした。あれ！私は生きていたのだ！と夢心地で思うと同時に、防空壕にいる戦友に早く知らせなければならぬ、と立ち上がろうとしたが立てません。脚を見ますと脚がありません。アッ！脚を爆撃で飛ばされたのだ、と直感しました。やはり私はこれで駄目なのだ、と瞬間的に思いました。

隣にいた乙川君はどうしたのかと辺りを見渡しましたが、彼の姿は私の身近には見当たりません。土埃と硝煙が次第に消え、付近の様子が多少見えてきますと、周囲にあった一抱えもある樹々が何処に飛ばされたのか、まともな姿の木は全くありません。地面の上は爆風で飛ばされた落ち葉や木の枝で埋められ、倒れた木、引き裂かれた樹木が散乱し、何処からか呻き声のようなものが感じられました。

付近の様子を恐る恐る見渡している中に多少着着きを取り戻したのか、脚の親指に感覚を感じ、あれ！もしかして脚があるのでは？と思い、土のかぶさっている中から両足を引っ張り出すと、爆風のため土で埋められた中から両足が出てまいりました。

良かった、助かったのだと歓喜して立ち上がり、辺りの様子を凝視すると、爆弾の炸裂した破片で真二つに裂かれた胴体、首、脚、腕などが血と爆風の土で、どす黒く固まり散乱して、地獄絵のような光景でした。すぐ近くに爆弾の落ちた大きな穴が不気味に開いていました。

心の中は恐怖とおののきで動揺し、身体全体が身震いし、震えが止まりませんでした。急いで防空壕の中に居る戦友に知らせなければならぬと、転がるようにして丘の上から下りて、助けを求めました。

その後、私も戦友と一緒に無我夢中で、ばらばらになった戦死者の遺体を、丘の上から下に運び出す作業をしていたのですが、右肩から右の腕にかけてヌルヌルと温かいものを感じ、服の襟から胸を覗きますと、下着が血で真っ赤に染まっています。最初は誰かの血が私に飛び散ったのだと思ったのですが、何となく温かいものが右肩から肌にかけているような感じがして、オヤ！と思いつつ上着のボタンを外して右肩を見ると、肩の後ろの方から血が噴出するように流れていました。

それまでは全身の神経が緊張していたので痛さを全く感じませんでしたが、血の吹き出るのを見た途端に痛みが全身を走り、失神してしまっただけでした。

気がついた時は航空隊から4km離れた処に在る、霞ヶ浦海軍病院のベットの上に臥せていました。後で分ったのですが、私と一緒に丘の上にはいたのは14名で、13名が即死し、助かったのは私一人だったそうです。

私が爆弾の炸裂した一番近くにおいて、その爆発する死角に入っていたので助かったようでした。私と一緒に爆撃の様子を見ていた乙川少尉は、爆弾の落下位置に対して瞬間的に真横に伏し、私は彼より炸裂した爆弾に近かったようですが、垂直に伏したのが、生と死の運命の分れになったと思われまふ。彼は胴体を真二つにされていたようでした。

私は霞ヶ浦海軍病院に入院し、意識を取戻した時には、爆撃の爆風で両耳の鼓膜を損傷したものが何も聞こえませんでした。勿論初めての経験ですが、看護婦さんが私に色々尋ねるのですが、看護婦さんの唇が動いて私に何か話しているのですが、何も聞こえませんでした。左耳の鼓膜は破れ方が少なかったのか、一週間程で聞こえるようになりましたが、爆撃で伏した時に、右側で炸裂したためか、右の耳は殆んど聞こえず、それ以来、蝉が耳の中に入っているように、今でもジーンと寝ても起きても耳鳴りが続いています。

入院している時、看護婦さんが、爆風の圧力で私の顔に刺さった土を、ピンセットで一つつ丹念に取ってくれました。爆風の空気の圧力は凄いです。

爆風でどの程度吹き飛ばされたか分かりませんが、被っていた戦闘帽のあご紐が外れ、救急に駆けつけた戦友が後片付けをしていた時に、私の名前の書いてある戦闘帽を見つけ、恐らく戦死したものだと思い、しばらくの間、戦死者名簿の中に村松の名前が載っていたようですが、病院に入院していることが判明し、戦死者の中から外された後になって聞かされました。

帽子が飛ばされたためか、頭髪、眉毛、睫毛などが熱風のために焼けてなくなりましたが、幸いに身体には火

傷はありませんでした。右肩から入った爆弾の破片は小指の先くらいの破片で、肩甲骨から垂直に役 20 cm程入ったようですが、幸いに動脈を避け、今日に至るまで約 60 年近く破片と一緒に生活をしています。

破片の入った傷口の治療は大変手荒く、当時は麻酔薬は貴重な薬品だったので、負傷程度では使いませんでした。銀の長い針金のような棒にリマオンシップの黄色い消毒の薬をつけ、傷口の中に差込み上下に動かすので、神経を刺激し、その痛さは我慢していても自然と涙が溢れ出る痛さでした。

私のベットの隣にいた予科練習生は、腿の付け根を右大腿部から左の大腿部に貫通銃創され、その治療の時の

呻き声は地獄の沙汰でした。私の治療の時、看護婦さんが「貴方は将校でしょ！隣の予科練習生のことを思えば軽傷です。こんな傷で痛がっては情けないと思いませんか」と叱られました。傷口に銀の棒を挿されて動かされるのは我慢できない痛さでした。

昭和 22 年 6 月 10 日、あの丘の上で 13 名の戦友が瞬時に戦死し、私一人が右耳が聞こえない程度で、今まで命を全うしていただけることに、人生の不思議さをつくづく感じさせられました。

乙川少尉他戦死した戦友のご冥福を祈る気持ちでいっぱいです。(前号の「その一」に続いて、掲載させて頂きましたが、本号をもって標題寄稿文は完となります。)

「平成 24 年定期総会」 開催のお知らせ

平成 24 年の定期総会は、下記の要領で開催いたします。

記

日時 : 平成 24 年 6 月 2 日(土)
午後 3:00~6:00 場所 : プラザ・アペア(蒲田駅南口)
会費 : 3,000 円(懇親会参加者のみ)

※総会終了後に懇親会を開催しています。卒業後 5 年以内の会員は招待とし、会費は無料ですので、お気軽にご参加下さい。(総務部)

平成 23 年度(第 87 期) 同窓会幹事名簿 (平成 24 年 3 月卒業のクラス別同窓会幹事)

クラス	担 任	幹 事
MA	河野 年光先生	小島 将武 押切 直人
MB	片山 智裕先生	田口 誠也 吉野 浩章
MC	小川 欽也先生	西村 龍彦 佐藤 克哉
EA	志賀 由直先生	柏木 諒 椿 雄太
OA	小島 茂先生	関口 和真 櫻井 千絵
OB	西岡 枝里子先生	平井 香里 高久 美洋
OC	原田 忠彦先生	山田 英次 日向 智恵
OD	金子 知美先生	曾津 廉也 瀬川 翔太
OE	森 吉男先生	黒澤 恵理子 早乙女 涼

9 クラス : 18 名 (印 : 代表幹事 印 : 副代表幹事)
学年主任 : 横田 正明先生

炎昏ト のうぜんかすら 花の宴
 油照 さるすべり咲く ピンク色
 陽光の 木洩れ日匿す 窓辺かな
 陽光を 匿す窓辺の 青葉かな
 震災で 戦災想う 土台石
 十九期 小出 与三

物故者

卒 期	氏 名(旧 姓)	没 年
蛸窓 15 回	足立 武俊	平成 23 年 6 月
18 期	平石 幸夫	平成 20 年 12 月
18 期	根本 利一	平成 22 年 11 月
19 期	時田 庄英	平成 23 年 3 月
19 期	白滝 俊朗	平成 23 年 1 月
22 期	鈴木 啓之	平成 22 年 8 月
23 期	中根 光康	平成 22 年 1 月
25 期	中野 勝	平成 23 年 2 月
29 期	佐久間 正次	平成 22 年 10 月
36 期	漆原 章夫	平成 23 年 6 月
40 期	川森 元人	平成 20 年 11 月
41 期	須山 孝志	平成 23 年 5 月
42 期	吉崎 一男	平成 21 年 7 月
42 期	吉川 一夫	平成 12 年 6 月
42 期	谷口 亨	平成 23 年 7 月
46 期	会田 敏子(高木)	
53 期	太田 賢太郎	平成 22 年 6 月
54 期	土井 清史	
元教諭	福沢 利男(国語)	平成 23 年 1 月

卒期の「蛸窓」は、定時制卒期です。

—企画・デザイン・印刷全般—

トータルプラン株式会社

〒144-0032 東京都大田区北糀台1-18-14
TEL (03) 5736-3447 FAX (03) 5736-3448
E-mail : total@wing.ocn.ne.jp

事務局だより

事務局・部会からの
お知らせとお願い!

「同窓会行事」参加のお願い

6月…定期総会	11月…東実祭
9月…懇親旅行	1月…新年会

同窓会行事は、毎年上記の時期に開催予定となっております。同窓生の方であればどなたでも参加出来ます。

お知り合いの先輩・同期・後輩の方にご連絡頂き、お誘い合わせてご参加下さい。

詳細に付きましては、事務局にお問い合わせ頂ければ、案内状を送付致します。また、同窓会のホームページでもご案内と、お申し込みが出来ます。(事務局)

「寄付の要請」などに注意して下さい

「名簿を作成するため寄付を募っています」などのサギの電話が横行しています。同窓会では寄付の要請は一切行っていません。ご家族の方にも周知されて直ぐに対応しないよう<注意>して下さい。

対処法として、「後日連絡を取る」ことにして、名前、住所、電話番号、卒業年度、担任の先生の名前などを聞いて、事務局にご連絡下さい。(事務局)

「広告」掲載のお願い

本同窓会誌に広告を掲載して頂ける企業・事業主の方を募集しております。本紙の広告料は5,000円(縦5cm×横8cm)、1/2スペース2,500円です。また、同窓会のホームページのトップページのバナー広告も募集しております。詳細はホームページの「広告バナー掲載について」をご覧ください。お申込みは事務局に連絡、又はホームページでお願い致します。(会報部)

「同窓会名簿」について

同窓会ホームページを随時更新し、行事などの最新情報をお知らせしております。閲覧されている同窓生が年々増加し、「お問合せフォーム」からの住所変更のご連絡などの他、「同窓会名簿が欲しい」との問合せが最近多数あります。

名簿は「個人情報保護法」等による法令遵守や名簿の悪用防止等の事由で印刷した名簿は発行しておりません。

住所変更等のご連絡を頂いた場合は、随時更新してデータベースで管理をしております。(企画部)

「同窓会報」送付のご案内

本会報は、卒業されてから3年迄の会員には送付しておりますが、以降は同窓会役員・同窓会行事出席者・本会報への寄稿者等にしか送付しておりません。

在庫部数に限りがありますが、クラス会・同窓会の開催の際には、事務局にご連絡頂ければ差し上げます。

ご遠慮なくお申し込み下さい。(事務局)

編集後記

会報誌「東実同窓会報」第23号の発行に際し、原稿をお願い致しました皆様におかれましては、快くお引き受け頂き、お忙しい中でのご執筆、誠にありがとうございました。

昨年発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所の放射能事故の被災者の方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

このような中、母校の陸上競技部が2年連続で全国高校駅伝東京都代表となり、全国大会では昨年の45位から30位と大きく順位を上げる活躍やマーチンバンド部が小編成の部で金賞受賞など、全国区で活躍している後輩を誇りに思うと同時に敬意を表します。

会報部では、同窓会の活動・母校の近況・会員の寄稿文などを掲載し、会員の情報誌として発行してから23年間連続して毎年1回発行しております。

幅広い同窓生からの寄稿をお待ちしておりますので、是非ご寄稿下さるようお願い申し上げます。(会報部)



東京実業高校同窓会

会報部員

責任者	川邊 國造 (副会長)
部員	遠藤 孝一 (常任幹事)
	佐藤 まり子 (")
	佐々木 健 (")
	山田 慎 (")

東実同窓会報 No.23

発行日	平成24年3月1日
編集	東実同窓会報 会報部
発行	東京実業高校同窓会
	〒144-0051 東京都大田区西蒲田8-18-1
	TEL:(03)3732-4481
	FAX:(03)3732-4456

エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。

e-Mail: info@tojitsu-dosokai.com

事務局: 080-1186-8945

: tojitsu-dosokai@docomo.ne.jp

発行人	本田 位公子
編集人	川邊 國造
制作	トータルプラン株式会社
編集協力	臼田 佳彦 (副会長)
	小野 博司 (教諭)
	米倉 美鈴 (事務局)